（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２５　年度（令和７年度）学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番　47	福山市立　　駅家小学校
最終更新日	２０２５年（令和７年）４月１日	

Ⅰ　福山市

ミッション　　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　　各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、
日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

○各校の授業を交流し、確かな学力を定着させるための授業改善を工夫して進めてもらいたい。
○不登校児童・生徒数と学校に来れない現状の把握、取組を今後とも大切に取り組んでほしい。
○自立した子どもの育成を目指す時、挫折した時どうサポートするかを考えておく必要がある。

児童生徒の現状

○自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上、学力の定着に課題がある。
○学校や地域の課題を踏まえて、何が必要なのか考えたり、実際に解決するために行動化したりする児童生徒が増えた。
○小中ともに長欠・不登校の児童・生徒は、一定数いるが、特に中学校において減少してきた。引き続き、個の支援を丁寧に行っていく。

育成する資質・能力	思考力・判断力　コミュニケーション能力　自己理解・自信
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	駅家に愛着と誇りを持ち　主体的に行動する児童生徒
中学校区として統一した取組等	○教材研究を深め、子ども主体の授業づくりを進めるとともに，学力の定着・向上を図る。 ○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる。 ○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。

Ⅲ　自　校

ミッション

教職員がやりがいを感じ，子供が社会の中で自分らしく生きることができる存在へと成長することを支援する学校

学校教育目標

自分で考えて行動する

現　状

＜児童生徒＞
○全国学力・学習状況調査では、国語 65%（国 67.7%）、算数 61%（国 63.4%）で、合計は 126%（国 131.1%）と全国平均を下回った。
○「友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた児童 89%。（学びのアンケート）
○「人の役に立つことを意識して、自分で考えて行動することができた」と答えた児童 85.1%。（児童アンケート）
＜授業＞
○「自分で決める・決め直す」学習の進め方や児童同士での学び合いができるようになってきているが、学力定着に課題が見られる。
○与えられた学習課題に対しては意欲的に学ぶが、習得した知識を活用して学びを修正したり、新たな課題を見出したりする姿は見られにくい。

育成する資質・能力		思考力・判断力	コミュニケーション能力	自己理解・自信
めざす子ども像	低学年	意図をもって、選んだり行動したりすることができる。	自分と友達のよさに気付き、考えを伝え合うことができる。	わかったこと、できたこと、できるようになったことなど、自分自身を振り返ることができる。
	中学年	よりよい考えや解決のために、意図をもって選択したり選択し直したりすることができる。	自分と友達の相違点に気付き、認め合いながら、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	自分のよさや身に付いた力、課題などに気付き、生活に生かしたり改善したりすることができる。
	高学年	自己決定と自己調整を繰り返しながら、よりよい解決や生き方を見付け、生活に生かすことができる。	多様な他者の考えや個性を受け入れ、自分の考えを論理的に伝えることができる。	自分や他者のよさを認め合い、「なりたい自分」に向けて、客観的に考えて取り組むことができる。

研究	テーマ	児童が「学ぶ過程」を楽しむ授業の創造 ー児童と教師の多様性と主体性を尊重した授業づくりを通してー
	内容等	児童の多様性を尊重した学習環境の下、一人一人に合った学習の仕方で学びを進める個別最適な学びと、身に付けた力を活用して友達同士でより良い解決策を考える協働的な学びの一体化の充実を図り、主体的に学び続ける力を育む。
めざす授業の姿		①**学習のゴール**が明確にされ、それにせまる**学習課題**が設定されている。 ②**児童の多様性を尊重した学習環境**を設定・改善している。 ③「学ぶ過程」の中に、意図をもった**協働的な学び**を仕組んでいる。 ④**教員自身の個性や強み**を柔軟に発揮している。

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　駅家小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
7	学ぶ過程を楽しむ児童の育成	★	継続	自ら学習を進めたり、友達と協働的に問題解決したりすることを通して、主体的に学び続ける力を高める。	・児童の実態を見取りながら、個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた教材研究を行い、授業を実施する。（年間２回以上） ・基礎学力を向上させるために、家庭学習の充実を図る。	・「目標をもって自分で学びを進めることや、考えることが楽しい」と答える児童の割合８０％。 ・「家庭学習を、各学年の目標時間以上行っている。」と答える児童の割合７０％。									
3	生きる喜びを実感できる児童の育成		継続	自分で考えて行動できたことを評価し、自己有用感を高める。	・「クラスや学年、学校の役に立つ。」という視点で掃除や当番、係活動を工夫するとともに、クラスや学年、学校のために頑張っていることを認め合う活動（いいところ見つけ等）を取り入れる。 ・中学校区で連携して、スマホやタブレット等の情報機器の使い方を見直すための取組を行う。	・「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」児童の割合７０％ ・平日のスマホ・ゲーム利用時間３時間未満の児童７０％									
4	地域や学校に貢献できる児童の育成		継続	地域の一員，学校の一員として何ができるか自分で考えて行動する	・ボランティア週間を学期に1回以上設定し，児童自身が校内や地域でできる活動を考え，児童のがんばりを奨励・顕彰する。	・児童自身ができる活動を考え，ボランティア週間内に７割以上実施できた児童（７０％以上）									
3	全職員で進める働き方改革		継続	前年度よりも，１つでも業務改善をすすめる。	・年間２回（夏季，冬季）に全体で業務改善について協議し，各部会等で検討する。	・前年度よりも業務改善が進んだ項目（１つ以上） 業務改善が前年度よりは進んだと感じる職員の割合８０％以上									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。